

*東京の女性のガン死亡率は、日本でワーストワン！

*東京で小・中学生のぜんそく被患率は、全国平均の2倍！

なぜなの？

資料代700円

9月23日(火・祝日) 《シンポジウム》
ストップ廃プラごみ発電！
知っていますか・・・
生命・環境への影響

日時：9月23日(火・祝日) 13時開場

開演：13時30分～

報告1：「廃プラ焼却とその問題」実行委員会

報告2：「廃プラ焼却による周辺大気汚染」

池田こみち氏(環境総合研 副所長)

講演3：「ダイオキシン等の有害物質の胎児への影響」

長山淳哉氏(九州大学医学部 准教授)

会場：文京区民センター(地下鉄・丸の内線、南北線、
「後樂園駅」。都営三田線、大江戸線「春日駅」いずれの駅にも隣接)



東京23区では、今年4月から10月にかけて、これまで不燃ごみとして埋め立てていたプラスチックごみ(廃プラ)を燃やし、ごみ発電を始めようとしています。

廃プラを燃やしたとき、発生するダイオキシンや重金属等の有害物質の影響は心配ないのでしょうか？世界的にCO₂の削減が課題となる中で、CO₂を急増させる廃プラごみ発電は、温暖化に「影響ない」では済ませることはできません。

東京では、02年以降5年間で、子供の喘息の被患率が倍になっています。22箇所のごみ焼却場で、可燃ごみに混入した廃プラが年間17万トンも燃やされて来たことに、関係ないのでしょうか？豊島や渋谷清掃工場周辺の小中学校が高いぜんそく被患率を示してきたことは、暗示的です。

今の数倍もの廃プラを焼却した時、大気環境への影響はどのように予測され、人の命や健康への影響はどのように現れてくるのでしょうか？

松葉を使った大気環境調査を全国的にかつ継続して行って来られた池田こみち環境総合研究所副所長から、膨大なデータを整理した影響予測をしていただきます。

ダイオキシン等の有害物質が、乳幼児や胎児に与える影響の研究を長年続けて来られ、このほど胎児に与える重大な影響を発表された長山淳哉九州大学准教授に、増えている出産異常などとの関係も話していただきます。日本のダイオキシン研究の先端を行くお2人にお話を聞きます。

主催：9・23実行委員会(呼びかけ：ストップ温暖化、廃プラ焼却連絡会(準) <共同代表 田巻誠 >)

賛同団体：NPO ごみ問題5市連絡会、農といのちを考える会、環境と喘息、環境シャボンの会、他

連絡先：佐藤(03-3209-0724)、村瀬(042-467-0061)